

新しい年を迎えて



飛鳥村長 加藤光彦

あけましておめでとうございます。皆さま方におかれましては、輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に引き下げられたことにより、少しずつではあります以前の日常生活を取り戻してきていると感じております。

本村においても、新型コロナウイルス感染症による停滞感を払拭し、皆さまに活気と賑わいを感じていただけるようなイベントを開催いたします。たとえば、昨年3月に開催した「第3回とびしまルシェ」では、約5千人の方々にお集まりいただき、大盛況のうちに終えることができました。本年も引き続き村民の皆さまが活気と魅力を感じていただける村づくりを展開してまいります。

さて、本村では、第5次総合計画を昨年4月にスタートさせ、将来に向けて中長期的な視点で事業を進めてまいります。

その中でも、本年は2つの大きな

事業がスタートします。

1つ目の事業は、新規住宅地開発事業です。本村の人口は令和2年度の国勢調査で増加しましたが、高齢化率も上昇しています。飛鳥村をさらに活気と魅力のある村にするためにも、新規住宅地の開発によって子育て世代を呼び込み、定住人口の増加に努めます。なお、新規住宅地開発は、旧中学校跡地を活用することで既存の農地を守りながら、令和8年度の方譲を目指します。

2つ目の事業は、ふれあいの郷の再編事業です。既存の敬老センターの利便性は確保しつつ、温泉を有効に活用しながら地元農産品を加工し、村内の方々に提供する観光交流施設とすることで多くの方が集う憩いの場となるよう整備を進めてまいります。

これらの大きな事業とともに、本年は住民の皆さまの健康についても大きく一歩を進めてまいります。本村では、すべての村民の皆さまの健康長寿を目指してきました。しかしながら、本村では糖尿病患者が多くなってきたのが現状です。そこで「ストップ・ザ・糖尿病」をスローガンに、保健、介護、福祉等の部門が連携し、一体的に住民の皆さまの健康管理をサポートしてまいります。と考えています。

「みんなでつくとびしま」を合言葉に職員一丸となり、村民の皆さま

の健康、安全安心、住みやすさを第一に考え、むらづくりを進めてまいります。

最後になりましたが、本年も皆さま方のご繁栄とご多幸を祈念し、年頭のご挨拶といたします。

令和6年 元旦

新春を迎えて



愛知県知事 大村秀章

あけましておめでとうございます。

昨年は、新たに「ものけの里」が開園した「ジブリパーク」を始め、国内最大のスタートアップ支援拠点「STARTION Ai」や「愛知国際アリーナ」の整備を着実に推進するとともに、2026年の愛知・名古屋アジア・アジアパラ競技大会に向けた準備をしっかりと進め、愛知を更なる「飛躍」へと導く1年とすることができました。

また、「少子化対策パッケージ」や「休み方改革プロジェクト」など、時代の流れを見極めながら、愛知が「ファースト・ペンギン」となり、様々な取組に果敢にチャレンジした1年でもありました。

世界は、グローバル化やデジタル化の加速的な進展、SDGs実現に向けた潮流など、大きく変化をしています。

今年も、ビッグプロジェクトを着実に進めるとともに、新時代を担う人材の育成・発掘に力を注ぎ、「日本一元気なあいち」の実現を目指してまいります。

今年3月には、ジブリパークがフルオープンを迎えます。また、10月には、「STARTION Ai」が開業します。世界中から、最先端の技術・サービス、人材を愛知に呼び込み、イノベーションを次々と創出することで、更に人材が育ち集まってくる、そうした人材の好循環を生みだし、更なる愛知の成長につなげてまいります。

また、社会インフラ整備や農林水産業の振興、教育、女性の活躍、医療・福祉、感染症対策、環境、雇用、多文化共生、防災・交通安全、東三河地域の振興など、県民の皆様の生活と社会福祉の向上にも力を注いでまいります。

引き続き、すべての人が輝き、未来へ輝く「進化する愛知」の実現に全力で取り組んでまいりますので、一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。

令和6年 元旦